

科目区分	教養教育科目（教養）	対象学年（以上）	1
科目名称	グローバル学術交流	単位数	2
講義題目	県大で考える〈いのち〉、〈生きる〉、そして〈人としての尊厳〉ということ——私たちが向き合うべき人類社会の課題	曜日・時限	金曜4限
担当教員	梶原 克教、川畑 博昭	開講時期	2018年度 後期
到達目標	今年度は、県大から世界へ繋がる一つの回路としてのグローバル化を、「いのち」「生きる」「人としての尊厳」をキーワードから設定する人類社会の課題を通して考える。この観点から、国内外の他者へ目を向けることが、すなわち自分自身の生や生存や尊厳を考えることになることを学ぶ。県大5学部の専門性と学際性を縦横に掛け合わせることで、深い専門性に裏づけられた世界大の問題意識と行動力を到達目標とする一つのグローバル化の試みである。		
授業概要	<p>到達目標に照らして、今年度は、①事実を正確に位置づけるための歴史的視点と、②現場主義の観点からの実態把握、の2点を基軸に据えている。3つのキーワード——「いのち」「生きる」「人としての尊厳」——を手がかりに、国内外から地球大の課題をつかみ出すことに主眼を置くが、県大5学部の専門性と学際性によって「グローバル化する県大」の観点から、問題の所在を浮き彫りにする構成となっている。このようにして提示される課題は、国内-国外-地球規模と、次元を異にしつつも、有機的に結び合っており、一つの人類社会の課題を構成している。</p> <p>1. 本科目における学内教員が担当する授業は、カリキュラムの都合上、例外を含みつつも、基本的には以下のように進められる。</p> <p>(1) 初回の授業で、受講生は可能な限り学年の違いを反映させた4～5人のグループに分かれ、以後はこれの単位で、討論やプレゼンなどの成果発表をおこなう。</p> <p>(2) 授業計画に示されている講義は、基本的には授業計画のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅶに示されているように、2名の担当教員がペアとなっておこなう。具体的には、各回の講義が45分、その後他の出席教員からのコメントや質問を15分、残りの30分は受講生間および受講生と教員の間での討論に充てられる。</p> <p>2. 上記1. と併せて、本科目では外部からの講師を招いた講演会、特別授業、ゲスト授業などの形態を取り入れるが、聴講にとどまらず、事前の準備を経た受講者グループの問題提起的なプレゼン発表を計画している。この点で、アクティブ・ラーニングの側面が維持される。現時点での外部講師による授業は、以下の通りおこなわれる。</p> <p>(1) ゲスト授業：2018年11月30日（金・4限）【確定】</p> <p>(2) 学術講演会：2018年12月12日（水・午後）【予定】</p> <p>〔*アメリカの大学生との日米交流討論会も、今後の調整次第で実施の可能性がある。〕</p> <p>(3) 特別授業：2019年1月23日（水・午後）【予定】</p> <p>3. 本科目におけるアクティブ・ラーニングの成果発表の形態</p> <p>(1) 上記(1)～(3)のいずれかにおける問題提起型プレゼン発表</p> <p>(2) サテライトキャンパスでの学外向け発表会、発表資料集やニュースレターの作成とWeb公開（高校への発信を含む）</p>		
授業計画	<p>0. イントロダクション（以下、カッコ内は担当予定者名） 履修ガイダンスと外部講師による講演や授業に関する説明。（日本文化学部・川畑博昭）</p> <p>Ⅰ. あらためて問う〈他者〉</p> <p>1-1 日本の排外主義を直視する—歴史との対話から（教育福祉学部・山本かほり）</p> <p>1-2 世界の〈いのち〉をいかに守るか—人間の安全保障の実現（外国語学部・木下郁夫）</p> <p>Ⅱ. 〈不自由〉がつなぐ〈いのち〉</p> <p>2-1 「生きる」ということ—ALS患者とのつながりを通じて（看護学部・岡本和士）</p> <p>2-2 〈いのち〉を問い直す教育—大震災の中で「生きる」子どもたち（教育福祉学部・丸山真司）</p> <p>Ⅲ. 〈生〉のための知と技</p> <p>3-1 〈いのち〉への想像力—可能性を示すものとしてのフィクション（日本文化学部・本橋裕美）</p> <p>3-2 〈生きる〉ためのことば—異文化の存在と言語権（外国語学部・糸魚川美樹）</p> <p>Ⅳ. 人としての尊厳の回復のために</p> <p>4-1 【ゲスト授業】〈生命〉の身体表現—世界で唯一無二の芸術創造の劇団態変35年間のエッセンス（劇団「態変」主宰・金満里氏）</p> <p>4-2 公害-被災者-差別・排除の歴史—水俣病の事例（看護学部・牛島佳代）</p> <p>Ⅴ. 【学術講演会】「ドキュメンタリー映画Atomic Mom制作秘話—科学といのち、核と平和、母と娘の葛藤」（アメリカPixar Studiosサウンドエンジニア・M.T. Silvia氏）</p> <p>Ⅵ. 学生による成果発信準備（日本文化学部・川畑博昭）</p>		

	<p>VII. 未来志向の人間性 7-1 人間社会にとってのネットワーク (情報科学部・田 学軍) 7-2 いのちと憲法—核・原発・日本国憲法9条 (日本文化学部・川畑博昭) VIII. 【特別授業】 原発・放射能の実態と実像—これからの世代へのメッセージ (講師は元原子炉実験場勤務経験者の予定) IX. 学生による最終成果発信準備 (日本文化学部・川畑博昭)</p>
授業時間外の学習 (予習・復習)	本シラバスおよび履修開始前に配布予定の文献一覧を参照して、自分なりの問題意識をもっておくことが望ましい。それをもとに、授業時の討論や外部講師による企画で予定されている受講者グループのプレゼン発表に、積極的に取組んで欲しい。
履修上の注意	<p>1. 受講に際しては、それぞれの問題関心から発して、2回の授業から構成される授業計画のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅶに示される各回のテーマの関連性をさぐりつつ、本科目全体の課題をつかむことを常に意識すること。</p> <p>2. この科目は異なるテーマで毎年開講予定であることから、自らが生きる社会や世界の複雑な問題の諸相を考え深める機会として、その後の受講可能性も視野に入れて欲しい。</p>
成績評価の方法	各回の授業に関する質問や感想等のショート・レポート20%、学期期末レポート50%、プレゼン30%で、総合的に評価する。
教科書	適宜、資料等を配布する。
参考書、教材等	<p>さしあたり各教員が担当するテーマについては、以下を参照。詳細な文献一覧は、後期開始前に受講登録者に配布予定。</p> <p>I. あらためて問う〈他者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中宏『在日外国人 第3版』(岩波新書、2013) ・中村一成『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件—〈ヘイトクライム〉に抗して』(岩波書店、2014) ・「SDGs進捗状況報告」(http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/) ・池上彰『一気にわかる! 池上彰の世界情勢2018国際紛争、一触即発編』(毎日新聞出版、2018) <p>II. 〈不自由〉がなくなぐ〈いのち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠沢秀夫『命尽くるとも—『古代の心』で難病ALSと闘う』(文芸春秋、2010) ・「生きる力」編集委員会『生きる力—神経難病ALS患者たちからのメッセージ』(岩波ブックレット、2006) ・制野俊弘『命と向きあう教室』(ポプラ社、2016) ・内橋克人編『大災害の中で私たちは何をすべきか』(岩波新書、2011) <p>III. 〈生〉のための知と技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿島徹『可能性としての歴史—越境する物語り理論』(岩波書店、2006) ・藤井貞和『古典の読み方』(講談社学術文庫、1998) ・かどや・ひでのり/ましこ・ひでのり『行動する社会言語学』(三元社、2017) ・木村護郎クリストフ『節英のすすめ』(萬書房、2016) <p>IV. 人の尊厳の回復のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金満里「生きることのはじまり」(筑摩書房、1997) ・鷺田清一編「身体をめぐるレッスン1 夢見る身体」(岩波書店、2006) ・原田正純『水俣病』(岩波新書、1972) ・石牟礼道子『新装版 苦海浄土』(講談社文庫、2004) <p>VII. 未来志向の人間性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバート-ラズロ・バラバシ(青木薫訳)『新ネットワーク思考』(日本放送出版協会) ・山形浩生『第三の産業革命(経済と労働の変化)』(角川学芸出版) ・森英樹・白藤博行・愛敬浩二編著『3・11と憲法』(日本評論社、2012年) ・小出裕章『原発と憲法9条』(遊絲社、2012年)